

# 2014 年度ジュニア・ SHIPPING ・ ジャーナリス賞 受賞報告

富山高等専門学校商船学科 千葉 元

2014 年 1 月末に、(公財)日本海事広報協会主催の「2014 年度ジュニア・ SHIPPING ・ ジャーナリス賞」に、富山高等専門学校商船学科 2 年生 (2015 年 4 月より 3 年生) の竹内めぐみ・中原嶺太郎の 2 名による作品、「The Crew and Their Spirits for Cutter ～カッターの起源、そして歩み・・・～」が、高校生部門の優秀賞を受賞した旨の通知がきました。

このコンテストは、「船」、「港」、「海運」をテーマとした、新聞を作成し、この出来栄を競うものです。今回の受賞作品は、商船学科 2 年生が、昨年 5 月の学園祭で行ったミニ研究展示をベースに、新聞形式の応募作品 (A3 が 2 枚) に仕上げたものです。カッター部で頑張っている、竹内、中原の両名は、カッターをいかに早く漕ぐか考える内に、カッターの歴史や長年に商船教育で取り込まれている意味を、様々な文献を調べ、またカッター競技のライバルの富山県立滑川高等学校カッター部の顧問の先生や、当校でカッター指導を担当している、当校航海学科卒業生の金山恵美技術専門職員にインタビューするなど、インターネットだけに頼らず、自分の五感と手足を良く使い、非常に頑張って、自分たちの思いを、まとめあげました。

ここで優秀賞に選ばれた、小学生部門 3 点・中学生部門 3 点・高校生部門 1 点の 7 作品の入賞者が、作品の発表会を実施して、この中から国土交通大臣賞と日本海事広報協会賞が選抜されます。このコンテストは、一昨年まではジュニア・マリン賞と呼ばれたものが、リニューアルしたものです。ジュニア・マリン賞時代には、当校学生グループが過去に 3 回の優秀賞を受賞したことがあり、東京での決勝大会に望んでいますが、上位の賞を得たことがありませんでした。そして、2015 年 3 月 26 日 (木) に東京海洋大学にて優秀賞受賞 7 チームによる発表会が開催されました。ここで、優秀賞入賞 7 組のプレゼンテーション、審査員からの質疑応答があり、結果として、竹内と中原の作品は「日本海事広報協会会長賞」に決定しました。これは、高校生部門でのトップ、全体で次席の賞となります。以下に学生達の思いを記した感想文を載せます。

中原学生「今回、国土交通大臣賞は受賞することはできませんでしたが、日本海事広報協会会長賞というもう一つの大賞を受賞することが出来ました。今まで作品に没頭して頑張ってきた成果がでて、もちろん素直に嬉しかったです。私たちは何度もたくさんの図書を読み、参考にしたり、実際に体験談を先生方にインタビューしたり、話のまとまりを囲んで色分けしたり、読みやすい段組みやわかりやすい写真などを載せたりするなど、たくさんの工夫を施したから、受賞できたのだと思います。しかし残念なことに、表彰式前に発表しましたが、審査員の方にカッターの魅力が伝わらなかったことが、非常に悔しく心残りです。質問の応答でも緊張して頭の中が真っ白になって、適切な答えにまとまらなかったことも、かなり悔しいです。ですがここで失敗したことは、決して無駄ではないので、自分の大切な経験の一つとして積めたので、嬉しいです。この成功や失敗などの経験を今後の課題として励んで行きます。本当にこのような大賞を受賞でき、嬉しく感謝しています。」

竹内学生「日本海事広報協会会長賞を授かることができたことに対しても大変嬉しく思うが、それ以上に、この新聞コンクールを通してたくさんの方々にかッターという競技を広めることができ、そして知ってもらえたことに私は嬉しく思う。これを機に、1 人でも多くの方がカッターに興味を持ち、そしてカッター競技に手を伸ばしてほしい。」

また、そのためにも私はここで止まらず、これからもカッターをたくさんの人々に広めるために活動していきたいと思う。このような新聞コンクールがあれば どんどん応募していきたいし、これはまだ私だけでは実現が難しいかもしれないが、地域の小中学生を対象にカッターに触れ合うイベントや機会も作れたらいいなと考えている。そのときは、また 今回応募した新聞とはまた違う観点でカッターについて紹介していきたい。発表に関しては、極度の緊張で途中から自分自身でも何を言っているのか分からない状態になっていたため、これから人前で発表するという場を踏みこなし、緊張してもあがらないようになっていきたい。」

受賞式後に、受賞学生2名は全日本船舶職員協会に受賞報告に出向き、岩田仁会長をはじめとした皆様に、受賞についてのお祝いと、これまでの努力と今後の学校生活へのご激励のお言葉を頂きました。

こうして、学生が何かに打ち込み、これをまとめあげ、そして多くの人々の前で発表を行うということは、非常に貴重な体験で、今後の学校生活や将来の社会生活への良い勉強になると確信しています。そして、学生たちが自発的に、多くの商船学校の先輩方が、シーマンシップ取得の第一歩として触れてきたカッターをテーマに選んでくれたことを、非常に誇らしく、また嬉しく感じております。

今後も、学生には、こうしたチャレンジを積極的にさせたいと考えております。その際には、先輩である皆様に、色々と触れあえる機会も作ってあげたいと感じております。今後共に、ご指導並びにご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



発表会にてスクリーンに投影された受賞作品の説明を行う竹内学生（左）と中原学生（右）



[左]優秀賞受賞者と審査委員の記念撮影（前列左から3人目が竹内めぐみ学生，後列左から5人目が中原遼太郎学生） [右]日本海事広報協会会長賞受賞後のインタビュー